

仙台医療センター建替等整備計画に係る
事業内容の変更について

平成 29 年 12 月

独立行政法人 国立病院機構
仙 台 医 療 セ ン タ ー

1. はじめに

現病院は、平成23年に発生した東日本大震災により建物に大きな被害が生じたため、最小限の応急処置として、外壁・内壁の亀裂補修を中心とした災害復旧を行った。このような状況下、基幹災害拠点病院として大災害発生時にも機能を維持し、入院患者の治療及び生命を守るための災害医療に当たるためには、災害に強い安全な建物を1日も早く整備する必要がある。さらに、基幹災害拠点病院として宮城県広域防災拠点の一翼を担い地域ニーズに応える必要がある。

以上のことから、現病院の南側の敷地に、病床規模660床を含む延床面積61,013㎡の新病院として建替えを行うとともに、ドクターヘリ運航のためのヘリポート及び格納庫を整備することとなった。

本事業については、平成27年1月に環境影響評価書を提出し、平成28年1月から平成28年8月までドクターヘリの格納庫及びヘリポートの工事を行い、平成28年4月から病院本館の工事に着手したところであるが、評価書に示した建築計画の内容から変更が生じたため、その内容を報告する。

2. 変更内容について

建築計画の変更概要は表-1に、それに伴う変更後の業務工程は表-2に、変更後の施設配置図は図-1に示すとおりである。

- ・当初、レストランやカフェ等の飲食スペースについては、現在建築中の病院本館に配置する予定であったが、利用者の利便性を考慮し、これらを集約したサービス棟を増築することとなった。
- ・サービス棟の増築箇所は、当初アスファルト舗装を予定していた箇所であり、緑化計画等に影響を及ぼすものではない。
- ・サービス棟増築に伴う延床面積の増加は約2.9%にとどまるものであり、また、工事の内容等に変更はないことから、事後調査の調査項目、調査方法、調査地点についての変更はない。

表-1 建築計画の変更概要

□: 今回追加した内容

項目	当初計画	計画変更後	備考
敷地面積	56,067 ㎡	56,067 ㎡	
建築面積	病院	14,036 ㎡	
	保育所	903 ㎡	
	サービス棟	—	717.1 ㎡
	合計	14,939 ㎡	15,656.1 ㎡
延床面積	病院	61,013 ㎡	
	保育所	903 ㎡	
	サービス棟	—	1,771.8 ㎡
	合計	61,916 ㎡	63,687.8 ㎡
敷地全体に対する建ぺい率	26.6 %	28.0 %	
敷地全体に対する容積率	110.4 %	113.6 %	
階数	病院	地上11階、塔屋1階	地上11階、塔屋1階
	保育所	地上1階	地上1階
	サービス棟	—	地上3階
最高高さ	54.95 m (建物高さ 50.1 m)	54.95 m (建物高さ 50.1 m)	最高高さ変更なし
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造(免震構造及び耐震構造)	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造(免震構造及び耐震構造)	
基礎	直接基礎	直接基礎	
緑化面積*	12,350 ㎡	12,350 ㎡	増減なし

※サービス棟の増築に伴い、周辺の保存木を1本伐採することとなるが、伐採される樹木と同じ樹種の苗木を計画地内に新植することにより、将来的には評価書で予測したとおりの緑化面積が確保されると予測される。

表-2 業務工程（変更後）

区分	平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度																																																			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
設計					業者選定		基本設計			実施設計																		(サービス) 基本設計																																																				
環境影響評価					方法書手続		準備書手続		評価書手続																			事後調査																																																				
本体工事																												工期(35ヶ月) 工事準備+本体工事																																																				
開院準備																																																																																
ドクヘリ工事																												工期(8ヶ月) 机上訓練 運航シミュレーション																																																				
サービス棟増築工事																																																																																

現在

3. 変更に伴う環境への影響

サービス棟増築に伴う新たな環境への影響は表-3 に示すとおり、工事中・供用後ともに小さい、または評価書作成時と変わらないと考えられる。

表-3 サービス棟増築に係る環境影響（概要）

	環境影響要因	サービス棟増築に伴う評価書作成時からの環境影響の変化
サービス棟増築に伴う環境影響	工事 <ul style="list-style-type: none"> 資材等の運搬 重機の稼働 建物等の建築 掘削 等 	サービス棟増築に伴う延床面積の増加は約2.9%にとどまるものであり、また、工事の内容等に変更はない。サービス棟の工事工程は、病院本館の工事用車両のピーク時と重なるものの、ピーク時の稼働台数に変更はなく、サービス棟工事期間中の工事全体の工事用車両や重機の稼働台数に変更はない。さらに掘削深度は病院本館よりも浅いことから、工事に伴う新たな環境への影響は小さいと考えられる。
	供用 <ul style="list-style-type: none"> 施設の稼働（駐車場、病院） 資材・製品・人等の運搬・輸送 	サービス棟の増築に伴う駐車場の台数及び動線に変更はない。また、室外機を一部増設する程度であることから、施設の稼働に伴う新たな環境への影響は小さいと考えられる。 サービス棟の増築に伴い救急患者搬送、来院、通勤、業務関連交通の走行経路等の動線に変更はないため、資材・製品・人等の運搬・輸送に伴う環境への影響は、評価書作成時の評価と変わらないと考えられる。

以上

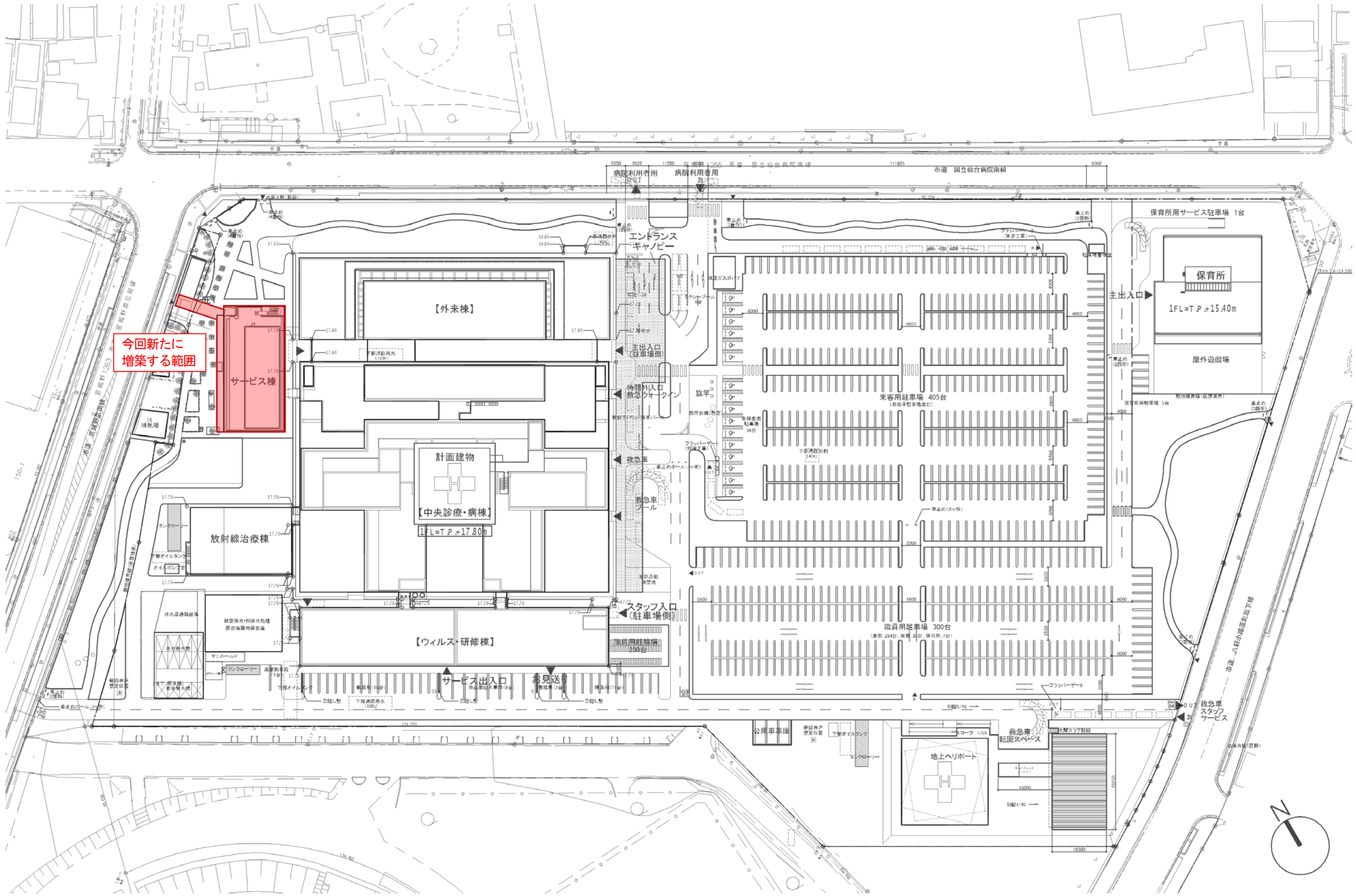


図-1 施設配置図 (変更後, 縮尺任意)